

in *Nymphaea tetragona* George: a comparison with other floating-leaved macrophytes. *Hydrobiologia* 242: 185-193.

長崎 撰, 1992. 共存するマダラミズメイガとミドロミ

ズメイガの生活史特性と資源分割. *日生態会誌* 42: 263-274.

Tsuchiya T, 1991. Leaf life span of floating-leaved plants. *Vegetatio* 97: 149-160.

休耕田でオニバスが生育

久米 修・和気 俊郎

オニバスの生育する水域は通常、湖沼や溜め池、河川、堀などが知られていると思う。ところが今夏香川県において、休耕田にオニバスが生育しているのが発見された。このような事例は、全国にも珍しいものと思われるので報告しておく。

このオニバスは、1997年8月30日に和気が、香川県丸亀市川西町南岸ノ上の休耕田で見つけたもので、翌31日に久米と和気により再調査を行った。

この休耕田は、丸亀平野の真ん中に位置する平野部の典型的な水田地帯に位置しており、米の減反政策で今年休作したものである。休耕田は、縦20メートル、横10メートル程度の広さで、水田としてしろ掻きした後、稲の苗を植えない休作地となったものである。しろ掻き後は、雑草の生育を抑制するため、田に水を張った状態で管理されてきたらしい。調査時点では水がほとんど無い状態であったが、畔の高さが10センチメートルであることから、水深は5センチメートル程度であったものと思われる。

オニバスは、休耕田のほぼ中央に1株だけ生育していた(写真)。水田面に広がった葉の広がり直径約2メートルで、半分黄化した直径約20センチメートルの成葉1枚、直径約30・40・50・60センチメートルの成葉が各1枚ずつ、ほぼ展開を終えた直径約50センチメートルの新葉1枚、展開し始めた直径約20センチメートルの新葉1枚の状態であった。他に、枯れて朽ちた葉柄だけのものが1枚、芯の部分に亀の子状に折り畳まれた新葉1枚と閉鎖花らしい果実2個が見えた。

休耕田に生育していたその他の植物は、アゼナ、スズメノトウガラシ、キカシグサ、ミゾハコベ(一面に非常に多い)、タマガヤツリ、コナギ、ウリカワ、ヒメガマ、シャジクモ(多い)で、()以外のものは点々と生育していた。これらは、いずれも今年発芽生育したものと推定された。

このオニバスの由来は、水系から推察して、休耕田の南東約200メートルにある八丈池(オニバス池No.20)からのものであると思われる。ただ、水田に水を引く初夏にはオニバスの種子は池底に沈んでおり、オニバスの種子が浮遊している秋には水田に水が不要であることから、何時ごろ休耕田に種子が来たものかは謎めている。

(香川植物の会)

